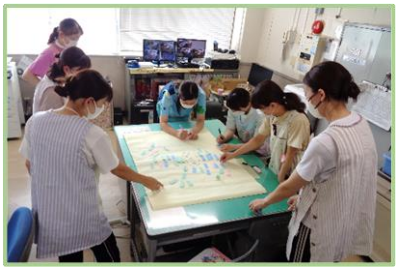
令和６年度　幼保小連携推進事業「授業と保育の相互参観（協議会）」

第２回協議会だより《東方部》

令和６年１０月３日（木）15:00～16:40　郡山市役所　正庁

【実践発表】　郡山市芳賀保育所

遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」から捉える～



芳賀保育所は駅の東側に位置し、郡山市公立保育所の中では一番歴史のある保育所です。当保育所では「遊び込む経験が小学校以降の学びにつながる」という視点で、児童一人一人の興味や関心に寄り添いながら環境を構成し、主体的な活動を展開しています。また、子どもたちが自ら夢中になって遊び込めるよう、職員がブレインストーミングで会議を行い（上記左写真）、様々な意見を保育に反映しています。実際に活動をしていくと、子どもたちの発想は豊かで、予想外の展開に保育士自身も学ぶそうです。また、子どもの探求心を育てる環境構成では、廃材を利用して道具を作り、試行錯誤しながら遊ぶことで学びを深めています。これらの活動を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」が総合的に育まれています。「良い経験は宝物」という思いで、日々先生方が子どもたちの思いと向き合いながら、話し合いを通して丁寧に保育されていると感じた内容でした。

【協議会】　グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。

☆　芳賀保育所の発表について

・子どもたちの「やりたい！」という気持ちを引き出す芳賀保育所の環境は素晴らしいです。先生方の自由な発想や子ども一人ひとりの気持ちを尊重していることで、より良い環境が作れているのだと感じました。

・職員同士で話し合う時間や環境を作ることは大変であっても、話し合うことの重要性を感じました。ひいては子どもたちのためになると思います。

☆　遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」から捉える～

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」が小学校ではあまり認知されていないと聞き、円滑な接続のためには、相互理解を図ることが重要です。

≪参加者からのアンケートから≫

・幼保と小学校が同じ悩みを抱えていることを感じられた会でした。もっと積極的に連携が図れるように、私自身が行動し小学校への架け橋の役目となるようにしたいと思います。（幼稚園：参加者）

・芳賀保育所の実践から、環境作りの大切さを考え直すきっかけとなりました。授業でも子どもたちに意欲を持たせていくような工夫をする等、自らも実践していきたい。（小学校：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。